

2022年度（2023年3月期） 第3四半期決算説明資料

2023年2月8日

H.U.グループホールディングス株式会社

（証券コード：4544）

- ※ 本資料では、記載している部分およびEBITDA(営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費)の数値を除いて、日本基準(J-GAAP)に基づく数値にて開示しております。
- ※ 「親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益」を「当期（四半期）純利益」と省略する場合があります。
- ※ 数値は原則として表示数値の単位未満で四捨五入しております。
- ※ 各事業名等については以下のとおり省略する場合があります。

検査・関連サービス事業 : LTS (Lab Testing and its related Services)

臨床検査薬事業 : IVD (In Vitro Diagnostics)

ヘルスケア関連サービス事業 : HS (Healthcare-related Services)

- ※ 本資料で用いている為替レートは以下の通りです。

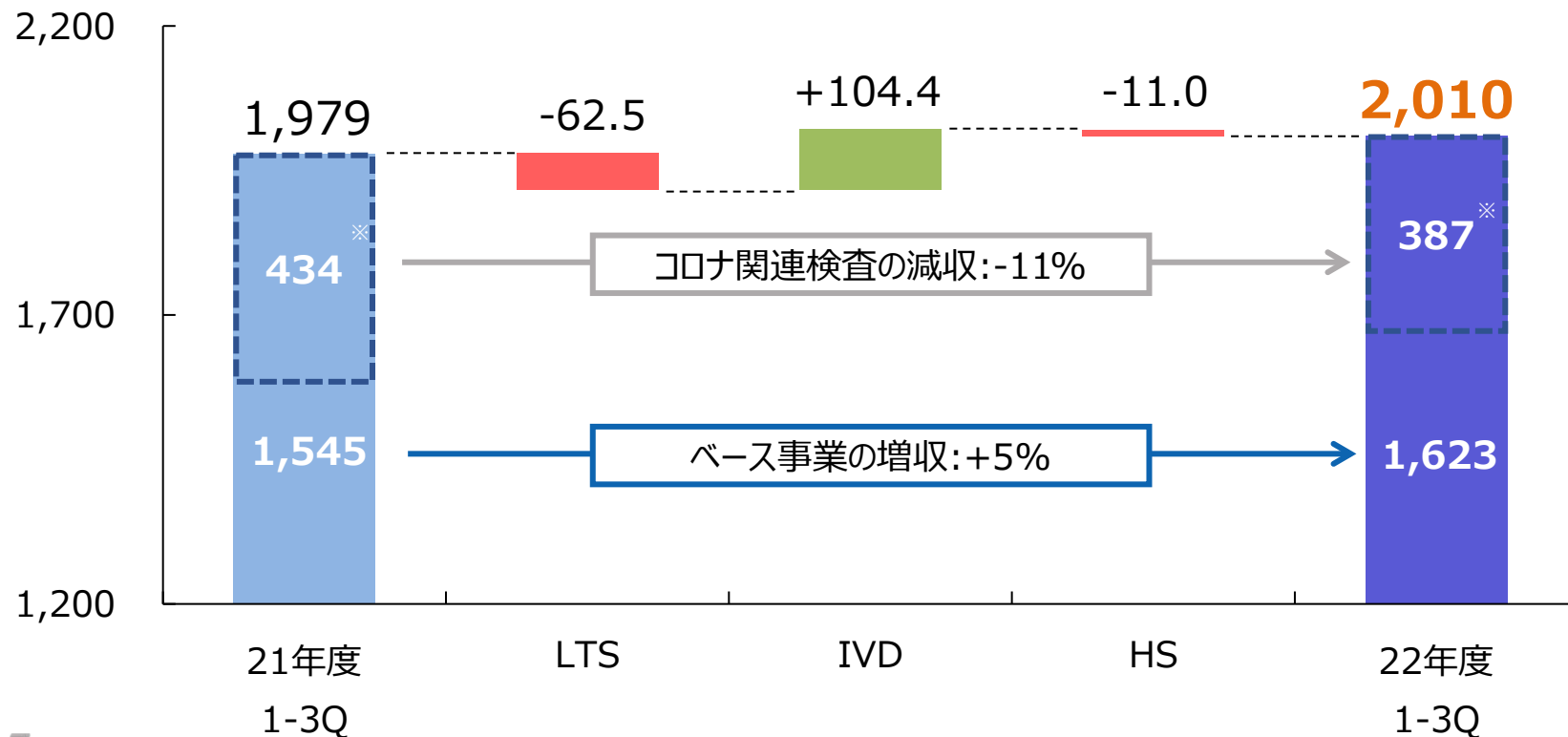
2021年度1-3Q : 1USD = 111.11 JPY 1EURO = 130.61 JPY

2022年度1-3Q : 1USD = 136.53 JPY 1EURO = 140.59 JPY

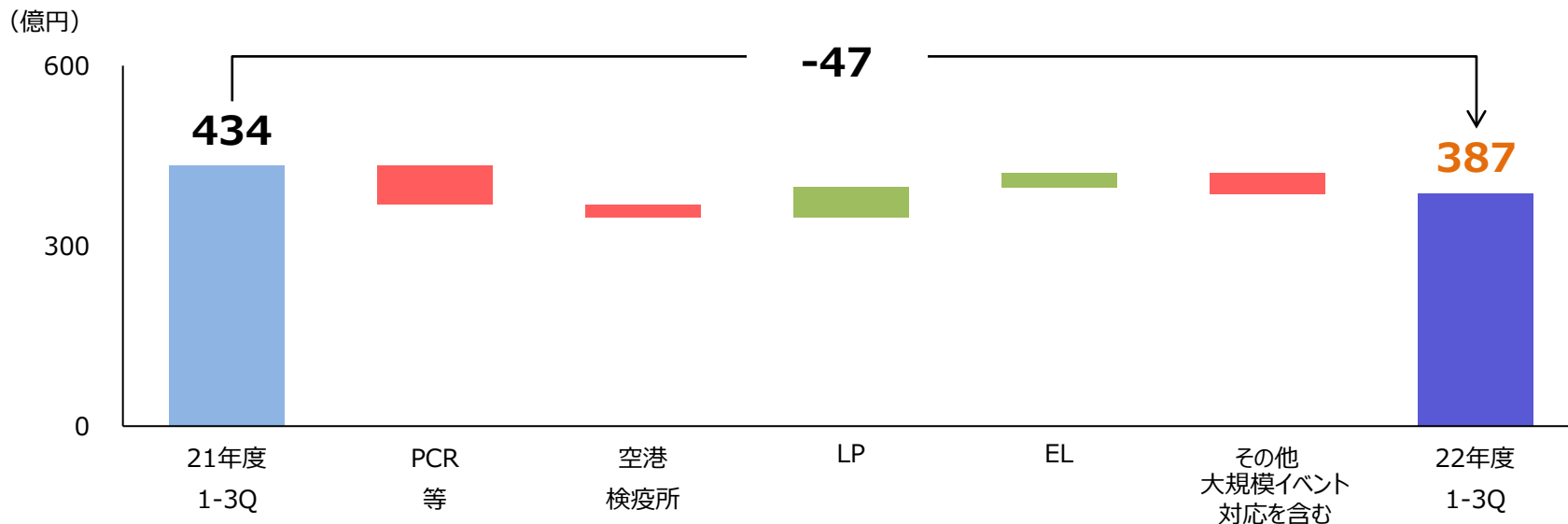
2022年度第3四半期決算概況

連結売上高 対前年同期比較

(億円)



22年度1-3Q COVID-19関連売上高（対前年同期比）



主な要因

ポジティブ

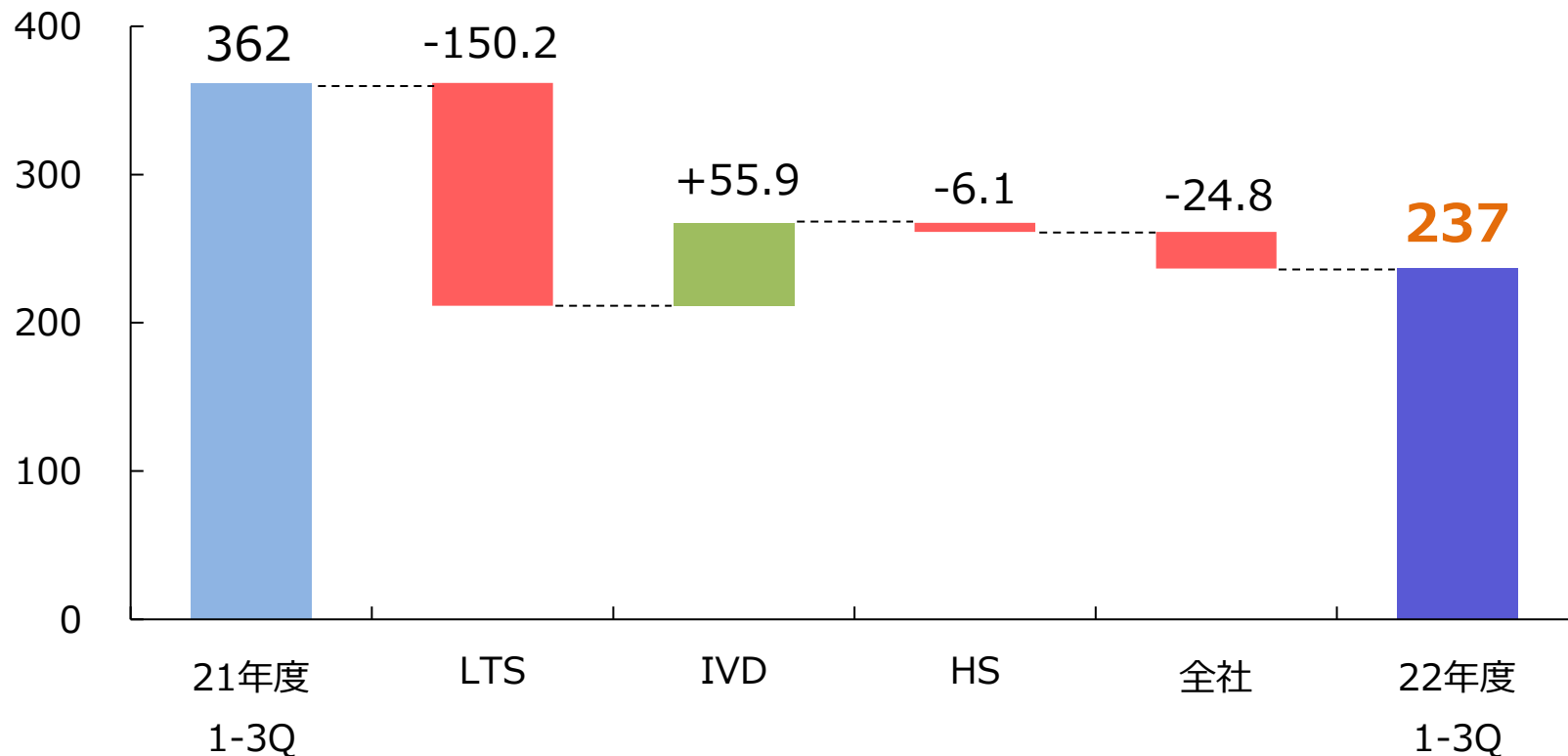
- 第7波、第8波にともなう抗原検査製品需要の増加（ルミパルス、エスプライン）

ネガティブ

- PCR検査の診療報酬改定（1,800点 → 700点）
- 空港検疫所における入国規制緩和
- 21年度は一過性要因あり（大規模イベント対応）

連結営業利益 対前年同期比較

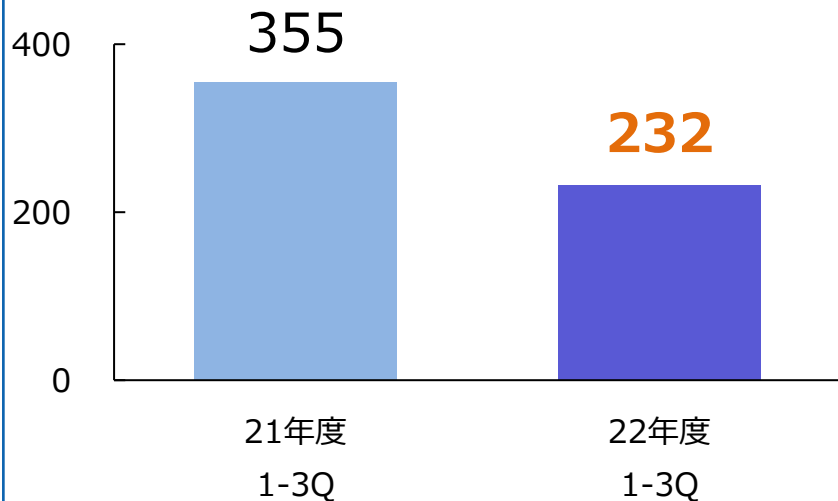
(億円)



連結経常利益および四半期純利益

経常利益

(億円)

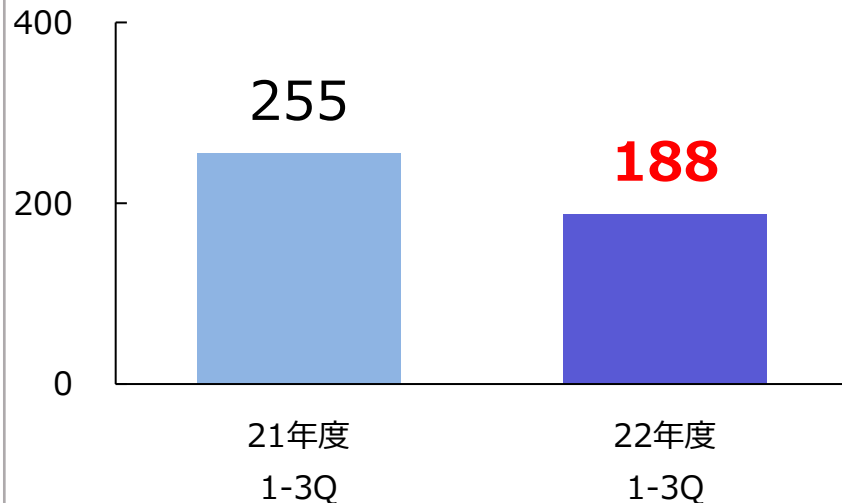


主な営業外損益

- 為替差益 + 5.8億円
- 持分法による投資損失 ▲ 13.2億円

四半期純利益

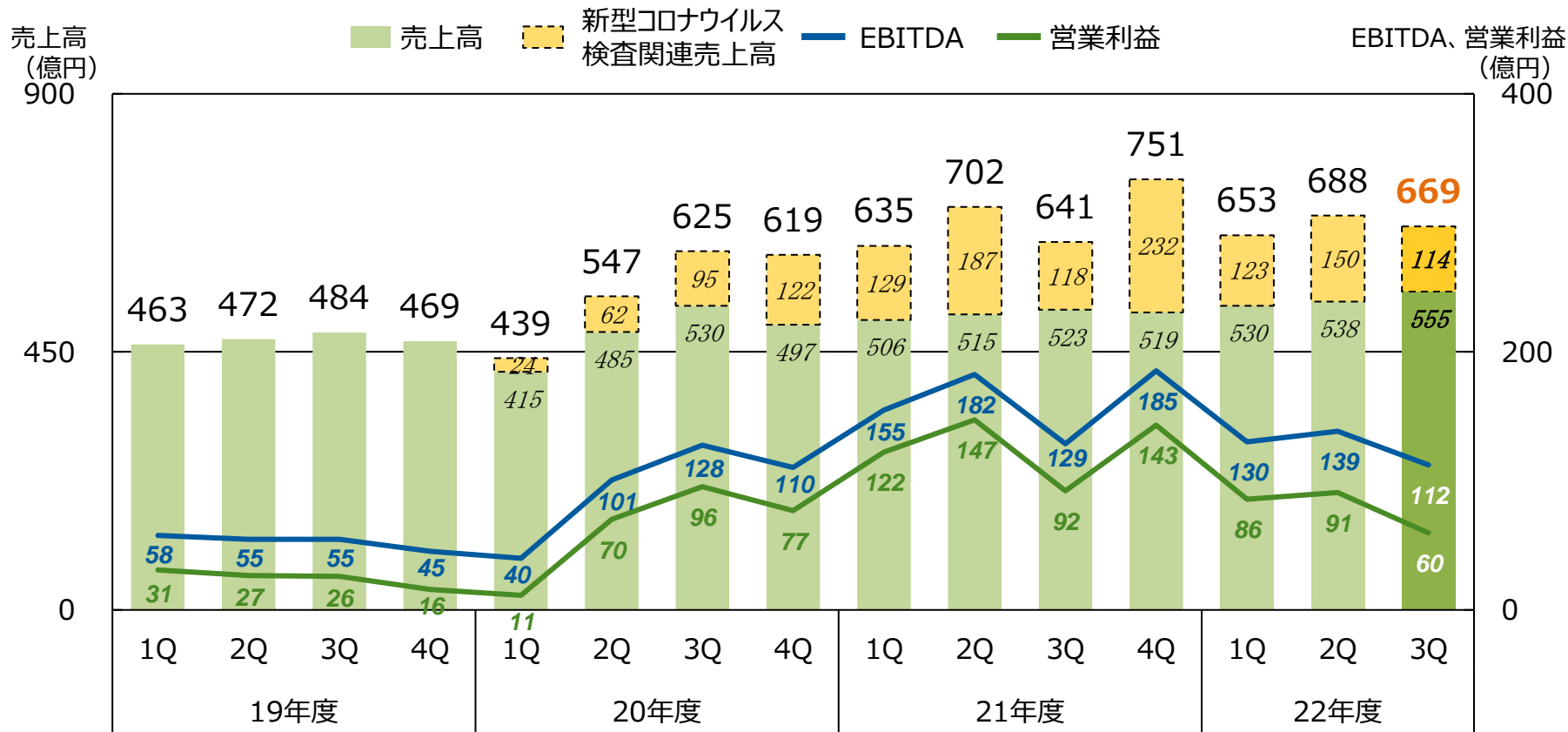
(億円)



主な特別損益

- 固定資産売却益 + 26.2億円
(Fujirebio Taiwan Inc.)

四半期毎の業績推移



LTS事業

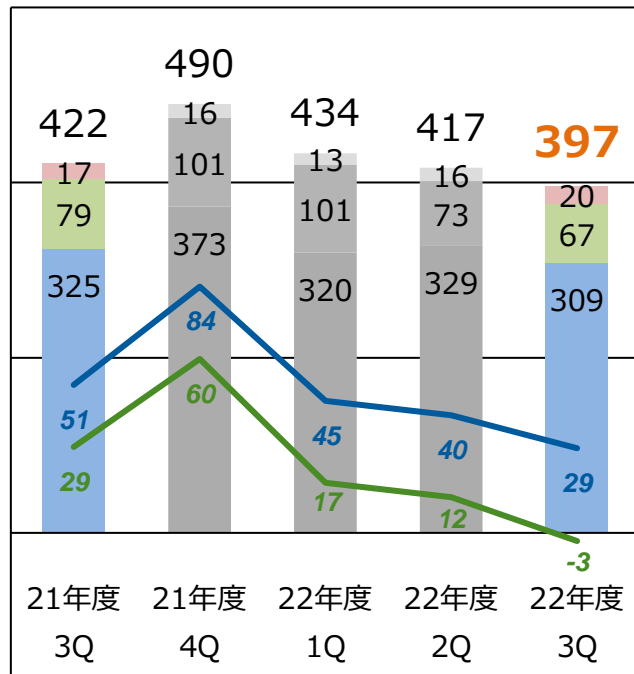
売上高
(億円)

600

400

200

0



■ 院外事業 ■ 院内事業 ■ その他
— EBITDA — 営業利益

EBITDA
営業利益
(億円)

180

120

60

0

対前年同期比

(億円)

	21年度 1-3Q	22年度 1-3Q	対前期比 増減	
売上高	1,310	1,247	-62.5	-4.8%
院外事業	1,033	957	-75.8	-7.3%
院内事業	238	241	+2.9	+1.2%
その他	38	49	+10.4	+27.0%
EBITDA	238	115	-123.6	-51.9%
営業利益	177	27	-150.2	-85.0%

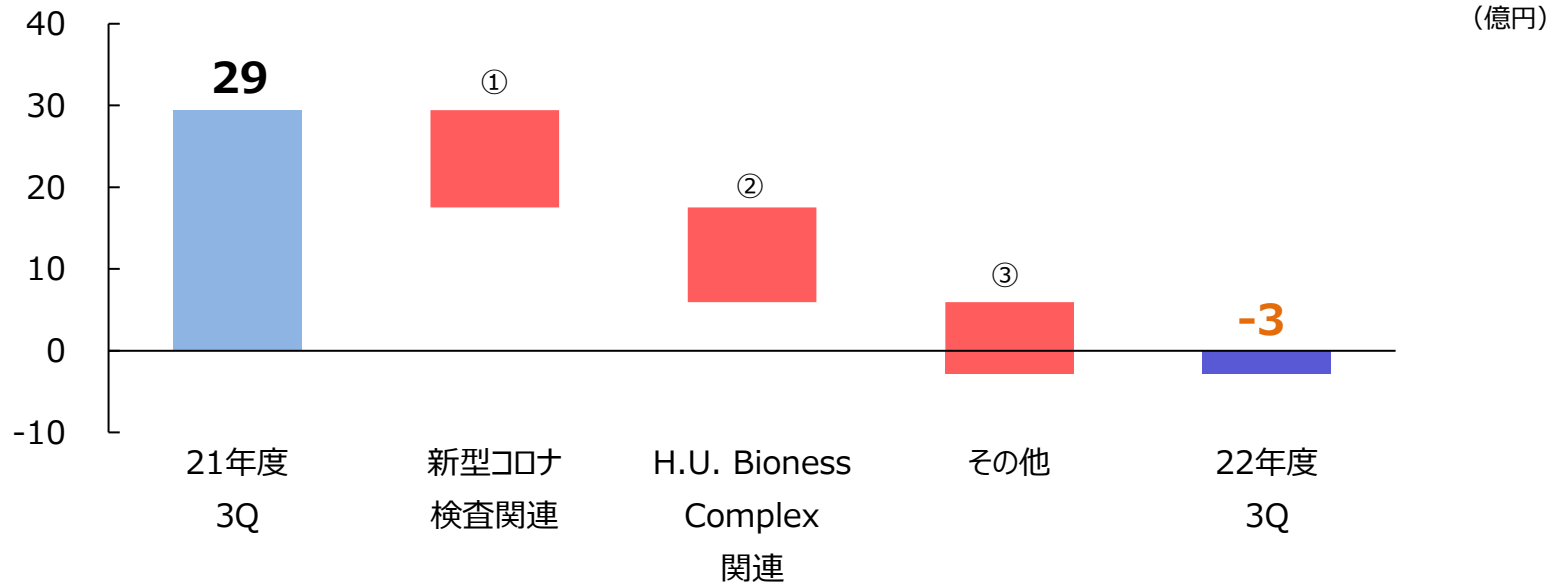
売上高

- 新型コロナウイルス関連：約206億円（前期約298億円）
増収：エスプラインの販売等
減収：PCR検査、空港検疫所における抗原定量検査、21年度の一過性売上（大規模イベント関連）
- 遺伝子関連検査の増加
- テスト数の増加

営業利益

- 新型コロナウイルス関連検査におけるPCR検査を中心とした診療報酬点数の減少
- H.U. Bioness Complex関連費用（前期：約33億円）
一時費用含む経費：約54億円、減価償却費：約30億円

LTS：第3四半期営業利益（対前年同期比）



- ① 新型コロナ診療報酬改定、入国規制緩和にともなう空港検疫所における抗原定量検査の減少
- ② 稼働範囲の拡大に伴う費用増（一時費用、減価償却費、ランニングコスト）
- ③ 感染高止まりによるベースビジネスの減少、エネルギーコスト・試薬コストの増加等

IVD事業

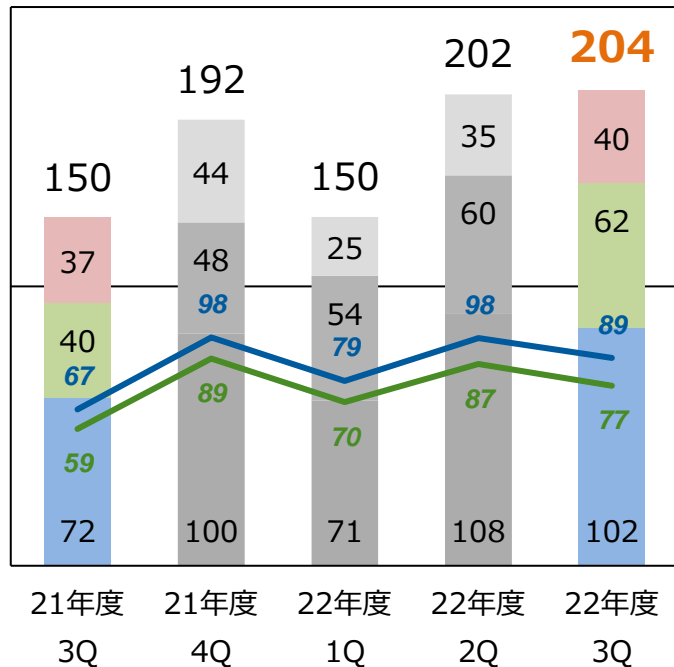
四半期推移

売上高
(億円)

240

120

0



21年度 3Q 21年度 4Q 22年度 1Q 22年度 2Q 22年度 3Q

ルミパルス事業 CDMO・原材料供給事業 その他製品 EBITDA 営業利益

EBITDA
営業利益
(億円)

240

120

0

対前年同期比

(億円)

	21年度 1-3Q	22年度 1-3Q	対前期比 増減	
売上高	452	556	+104.4	+23.1%
ルミパルス	221	281	+60.5	+27.5%
国内	187	252	+65.8	+35.3%
海外	34	29	-5.2	-15.4%
CDMO・原材料	134	175	+41.2	+30.7%
その他	97	100	+2.6	+2.7%
EBITDA	202	266	+64.5	+31.9%
営業利益	178	234	+55.9	+31.3%

ルミパルス 内販売売上高	61	55	-6.7	-10.8%
--------------	----	----	------	--------

売上高

- 新型コロナウイルス関連：約181億円（前期：約135億円）
✓ ルミパルスおよびエスプラインSARS-CoV-2の販売増加
- ベース：国内ルミパルスおよびCDMOが伸長

営業利益

- 増収による増益

為替影響（売上高：+37億円、営業利益：+10億円）

※ 2021年度第3四半期より、事業・製品特性を考慮し、OEM・原材料供給事業の名称をCDMO・原材料供給事業へ変更

新型コロナ・インフルエンザ同時検査キットについて

インフルエンザとの同時流行に備え、早期から同時検査キットを市場へ提供



エスプライン® SARS-CoV-2&Flu A+B



エスプライン® SARS-CoV-2&Flu A+B（一般用）

- 2021年8月13日：同時検査キットの製造販売承認取得
- 2022年12月5日：一般用検査薬としての承認取得（他社に先駆けて取得）
- 2022年12月23日：一般用検査薬として販売開始

HS事業

売上高
(億円)

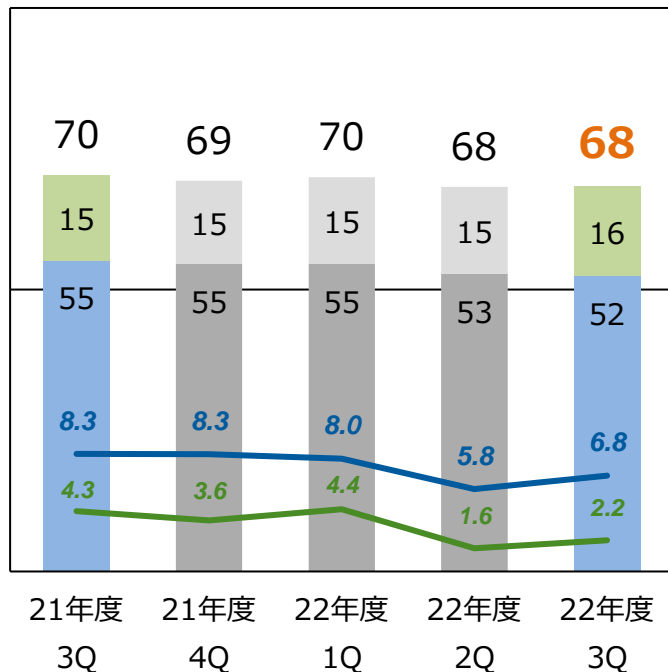
四半期推移

EBITDA
営業利益
(億円)

100

50

0



■ 滅菌関連事業

■ 在宅・福祉用具事業

— EBITDA

— 営業利益

対前年同期比

(億円)

	21年度 1-3Q	22年度 1-3Q	対前期比 増減	
売上高	217	206	-11.0	-5.1%
滅菌関連	174	160	-14.5	-8.3%
在宅・福祉用具	43	47	+3.4	+7.9%
EBITDA	25.3	20.6	-4.7	-18.6%
営業利益	14.4	8.3	-6.1	-42.6%

売上高

滅菌関連

- 医材預託品販売の減少

在宅・福祉用具

- 増収を維持

営業利益

- 人件費の増加
- 将来成長に向けた先行費用の影響

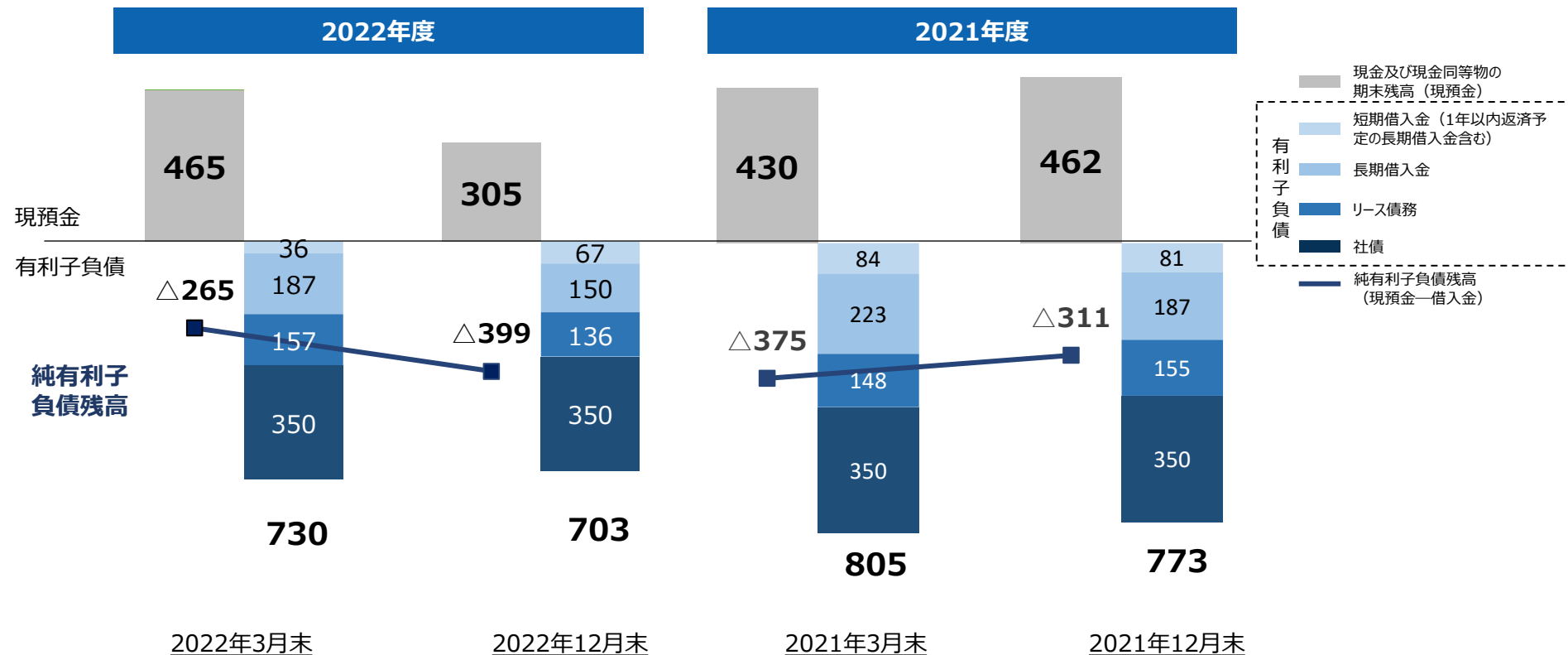
連結業績（対前年同期比）

		21年度1-3Q		22年度1-3Q		対前期比		(億円)
		実績	利益率	実績	利益率	増減		
売上高		1,979		2,010		+30.8	+1.6%	
	LTS	1,310		1,247		-62.5	-4.8%	
	IVD	452		556		+104.4	+23.1%	
	HS	217		206		-11.0	-5.1%	
営業利益 ※		362	18.3%	237	11.8%	-125.2	-34.6%	
	LTS	177	13.5%	27	2.1%	-150.2	-85.0%	
	IVD	178	39.5%	234	42.1%	+55.9	+31.3%	
	HS	14	6.6%	8	4.0%	-6.1	-42.6%	
経常利益		355	17.9%	232	11.5%	-123.1	-34.7%	
四半期純利益		255	12.9%	188	9.3%	-67.3	-26.4%	
EBITDA		466	23.5%	381	19.0%	-84.6	-18.2%	

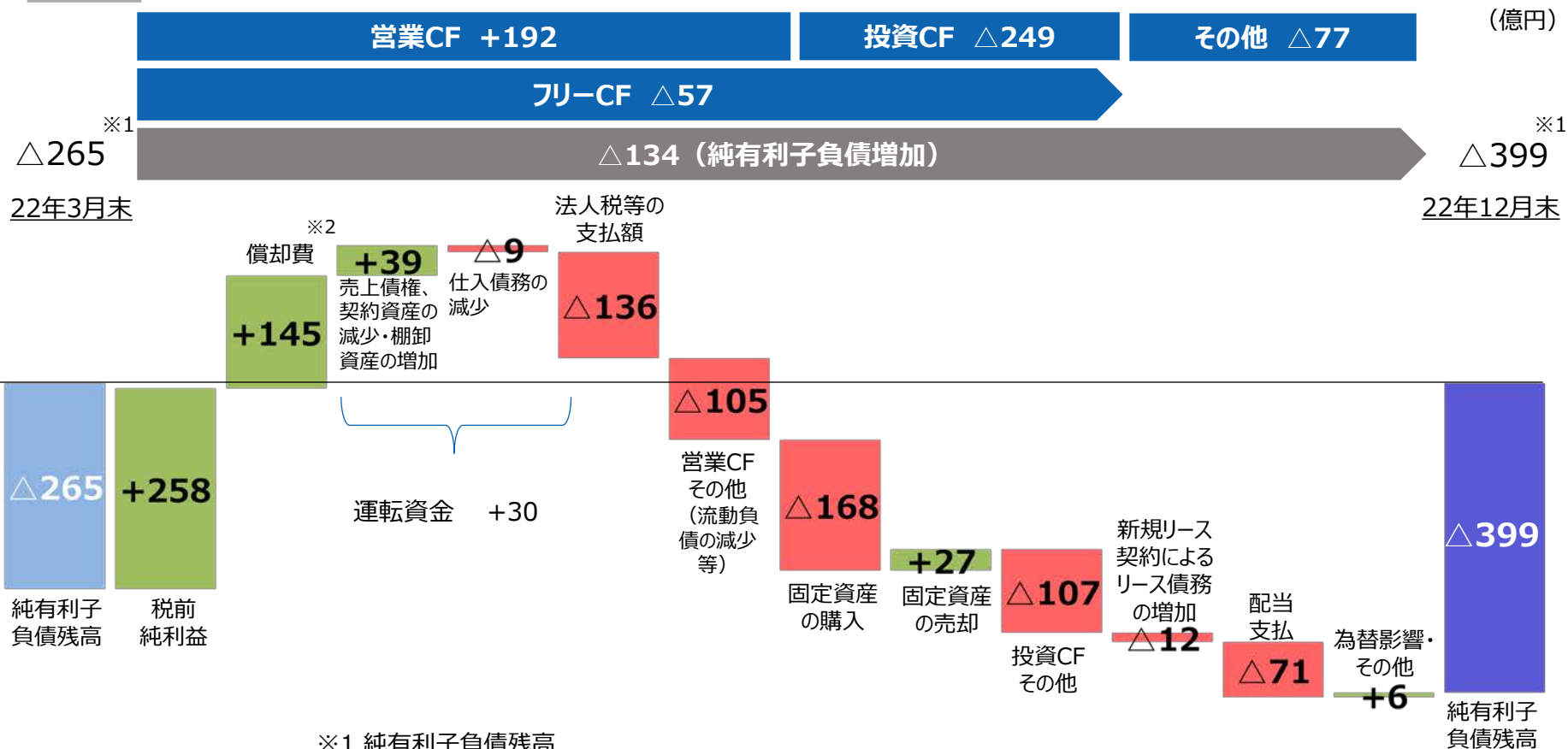
※ 全社費用およびセグメント間取引消去を含む（21年度1-3Q：▲7.8億円、22年度1-3Q：▲32.6億円）

現預金・有利子負債残高

(億円)

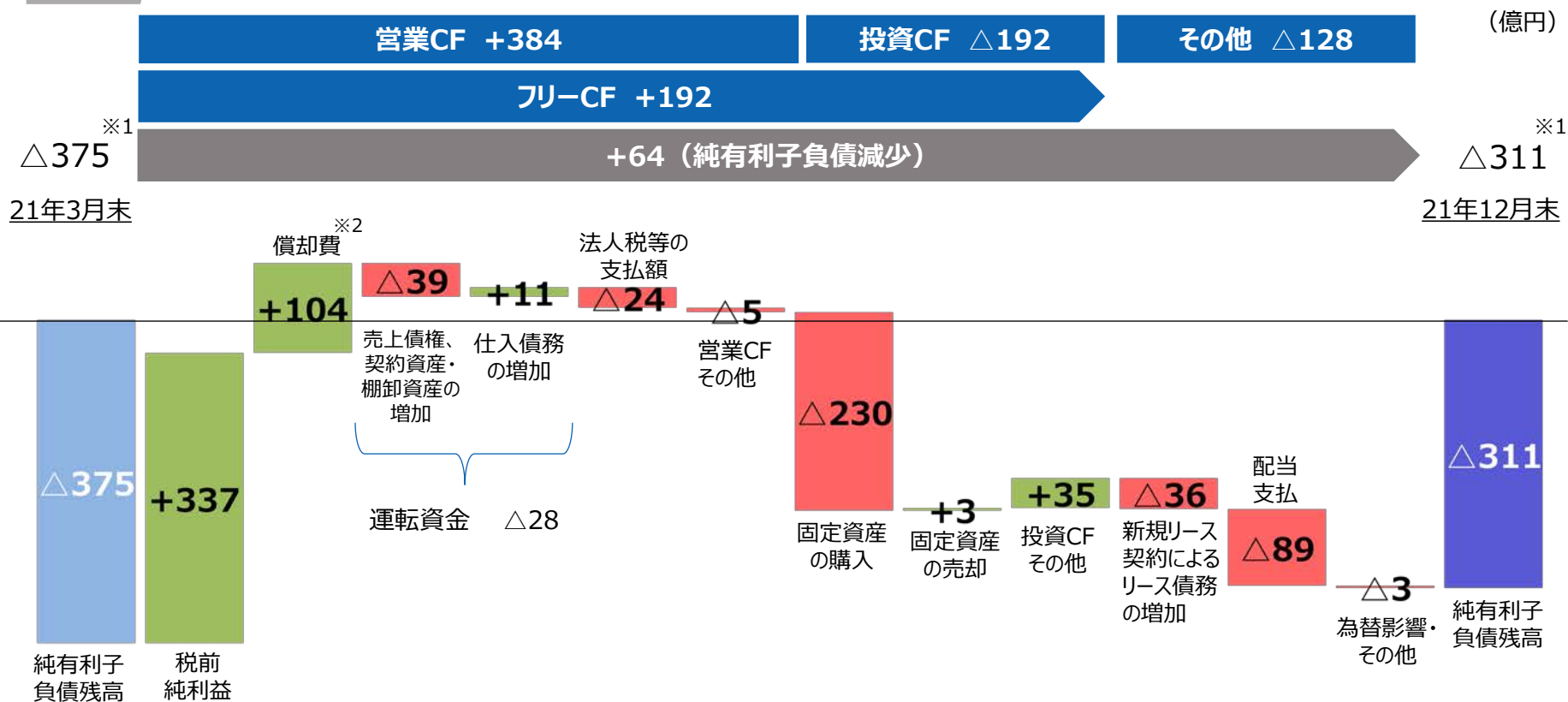


2022年度1-3Q連結キャッシュ・フロー（CF）の分析



※2 減価償却費+のれん償却額

2021年度1-3Q連結キャッシュ・フロー（CF）の分析



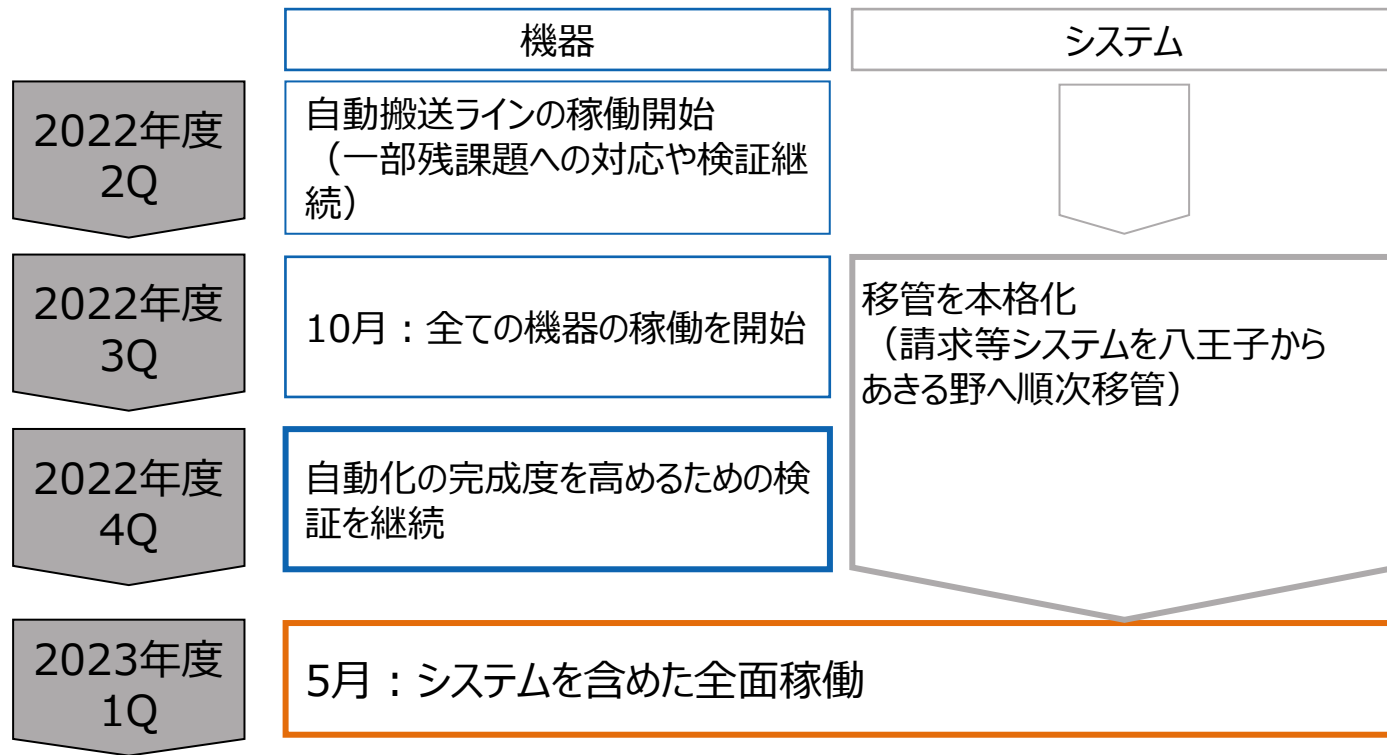
※1 純有利子負債残高

※2 減価償却費+のれん償却額

戦略の進捗 および2022年度通期連結業績の見通し

戦略の進捗：H.U. Bioness Complexの現状と見通し

23年度初頭の全面稼働に向けて計画を推進中



戦略の進捗：H.U. Bioness Complex 現状と今後の関連費用・発現効果

		2021年度 1-3Q実績	2022年度		2023年度（参考）	
			1-3Q実績	通期見込み	見通し	対2022年度比
コスト	一時費用	▲30億円	▲27億円	▲33億円	一部継続的に発生	減少
	減価償却費	—	▲30億円	▲42億円	全面稼働後は一定額が発生	増加
	ランニングコスト※	▲3億円	▲27億円	▲36億円	継続的に一定額が発生	不変 (増加リスクあり)
	コスト合計	▲33億円	▲84億円	▲111億円		
効果	効率化効果	—	—	限定的	稼働範囲の拡大とともに徐々に発現	増加

東京セントラルパソロジーラボラトリー（TCPL）の株式取得

企業概要

経営理念「Quality first」を掲げ、主に病理学的検査分野において、検査を実施

H.U.グループ（SRL）の強み

- ✓ 特殊病理検査
- ✓ 大病院を中心としたKOL※とのネットワーク
- ✓ 安全衛生面での充実した検査環境



TCPLの強み

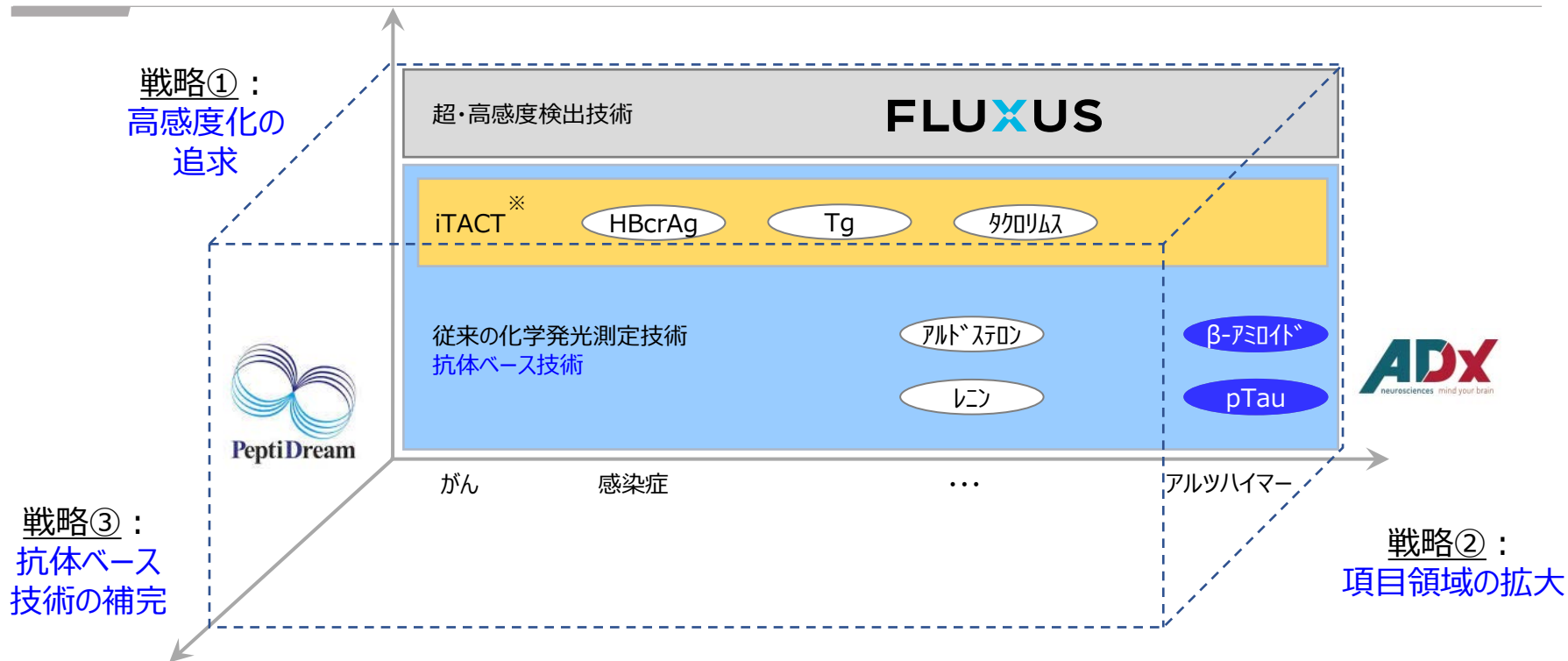
- ✓ 全国の病理医との強固なネットワーク
- ✓ 一般病理検査
（効率的なオペレーション）



株式取得の目的

- TCPLがもつ全国の病理医ネットワークの獲得・当社グループへの融合・強化
- 病理学的検査の高度化・効率化を通じた事業の拡大

IVD R&Dの基本戦略



技術面で、世界をリードする：
成果物は、CDMOモデルを通じて、グローバル企業に供給する

※ iTACT (immunoassay for Total Antigen including Complex via preTreatment) : 富士レビオの検体前処理技術

アルツハイマー：基本戦略および進捗

脳脊髄液（CSF）検査の
自動化・IVD化

CSF検査に加え、
血液検査のラインアップ拡充

超・高感度検出による
血液検査のラインアップ拡充

ルミパルス向け項目（計4項目）の
開発に成功

- βアミロイド1-42
- βアミロイド1-40
- pTau181
- Total Tau

主要国におけるIVD承認取得

- FDA
- CEマーク（IVD-R対応済み）
- PMDA

ルミパルス向け項目の開発を加速

- 上市済み（3項目）
 - βアミロイド1-42
 - βアミロイド1-40
 - pTau181

- 23年3月までに上市予定
 - +3項目以上

新たなプラットフォームおよび
専用試薬を開発

- 23年度末までにRUO上市
- アルツハイマー関連項目を予定

→ 順調に進捗



ADx社およびFluxus社買収を通じ、開発活動を加速

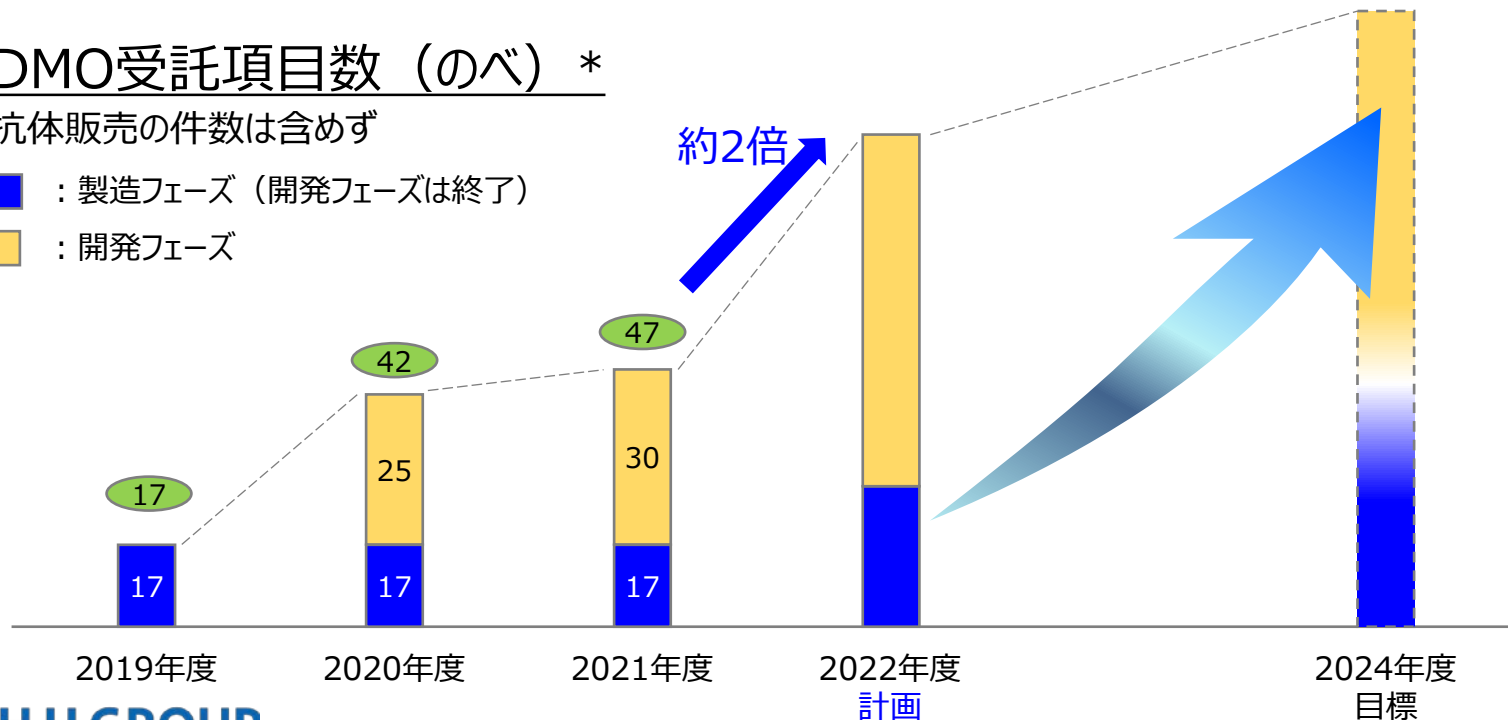
CDMO

- 開発フェーズにある項目を確実に製造フェーズへ移行させる
- ユニーク項目の強みを活かし、グローバルに展開するパートナー以外へも事業を拡大（海外でのトッププレーヤー）

CDMO受託項目数（のべ） *

* 抗体販売の件数は含めず

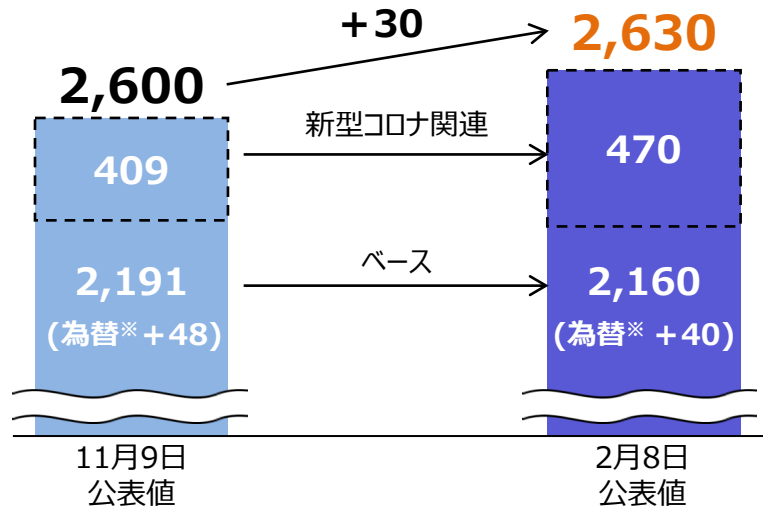
-  : 製造フェーズ（開発フェーズは終了）
-  : 開発フェーズ



通期連結業績（売上高、営業利益）の見通し（11月9日公表値対比）

売上高

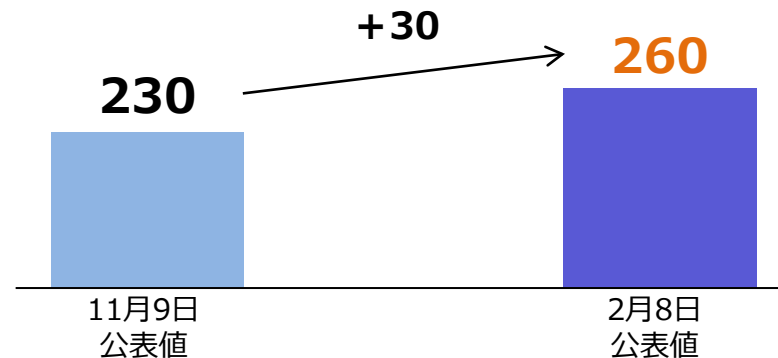
(億円)



- 新型コロナウイルス影響
 - ✓ 第8波にともなう検査需要の増加（主にIVD）
 - ✓ 第8波の発生による市場の停滞（検査需要回復の遅れ）
 - ✓ 第4四半期における入国規制再強化による検疫所検査の増加
- 為替（円安）影響：+40億円

営業利益

(億円)



- 新型コロナ関連売上の上方修正にともなう利益増
- 為替（円安）影響は限定的

通期連結業績の見通し（PL）

（億円）

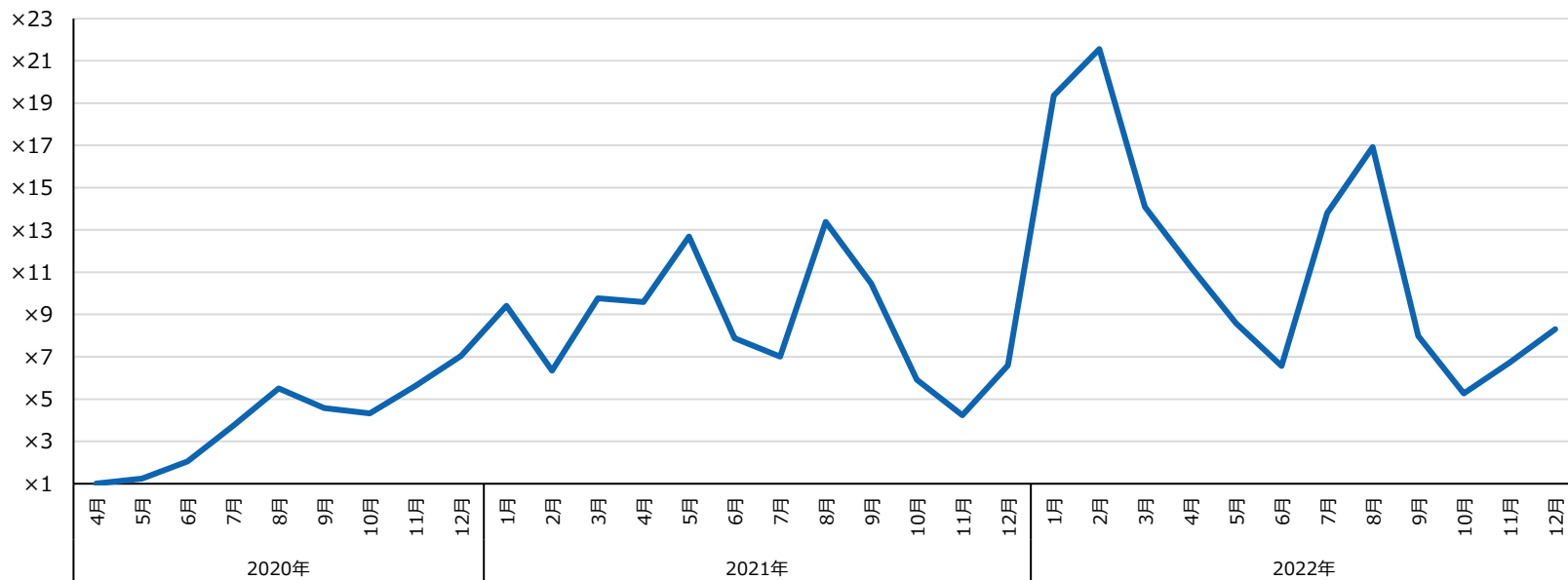
	2021年度	2022年度			
	実績	11月9日 公表値	2月8日 公表値	対前年同期比	11月9日 公表値対比
売上高	2,729	2,600	2,630	-99 -3.6%	+30 +1.2%
EBITDA	651	431	460	-191 -29.4%	+29 +6.7%
営業利益	505	230	260	-245 -48.5%	+30 +13.0%
経常利益	474	208	239	-235 -49.6%	+31 +14.9%
当期純利益	296	158	174	-122 -41.2%	+16 +10.1%
ROE	23.2%	11.5%	12.6%		
ROIC	15.4%	6.8%	7.7%		

Appendix

新型コロナウイルスPCR検査実施数

PCR検査受託状況（新型コロナウイルス関連）

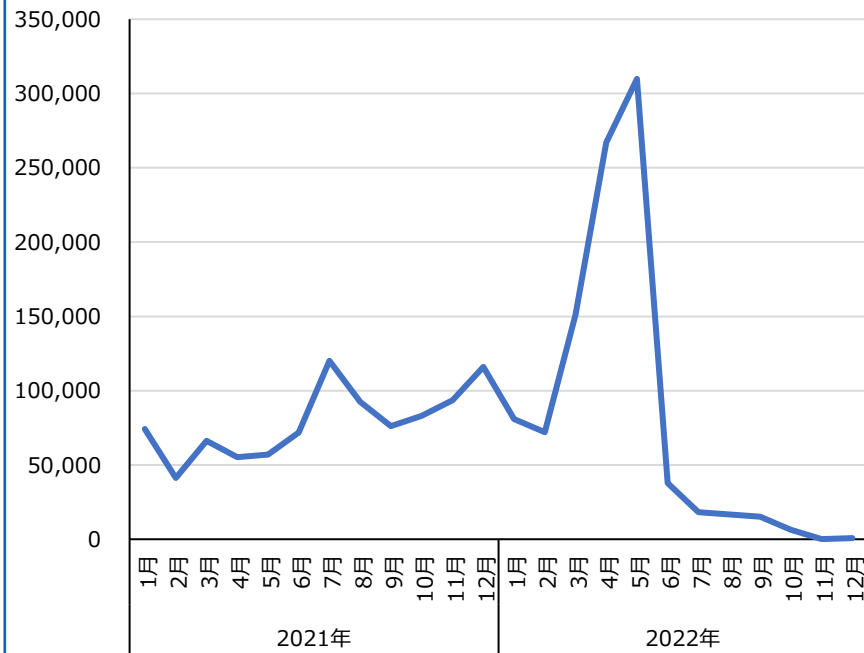
2020年4月の受託総数を1とした場合の増加率※



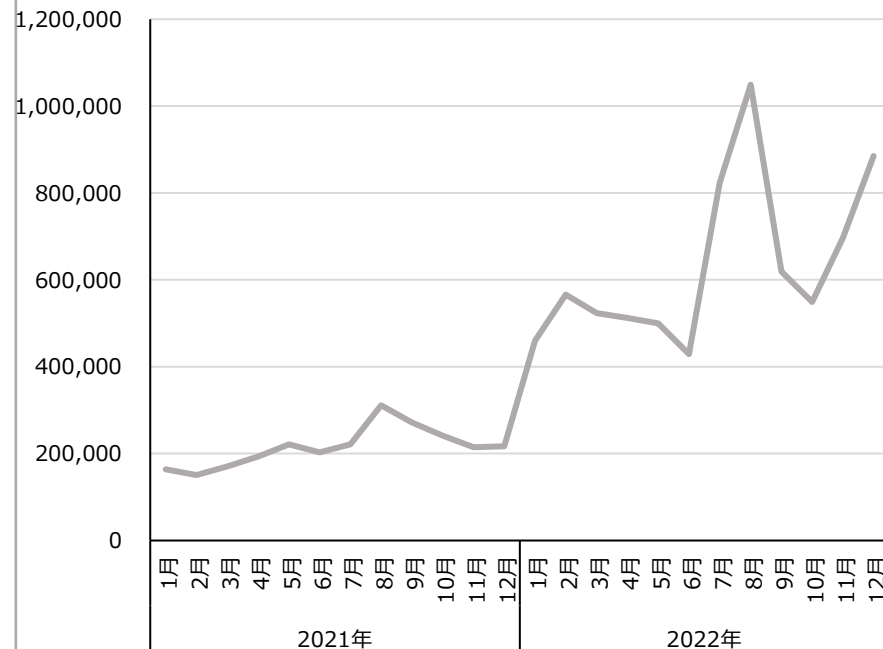
※ SRL、日本臨床の全国での受託

新型コロナウイルス抗原定量検査実施数

空港検疫所での月次抗原定量検査実施数※



医療機関における月次での高感度抗原定量検査実施数※



【連絡先】

H.U.グループホールディングス株式会社

IR/SR部 ir@hugp.com

将来見通しに関する注意事項：

資料中の業績見通し数値は、現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣による判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づき作成されたものです。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら業績見通しとは異なる結果となり得る事をご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢の悪化、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、新製品上市の遅延、競合会社の製品戦略による圧力、当社既存製品の販売力の低下、販売中止、等がありますが、これらに限定されるものではありません。